

波 紋

1992 4 第82号



みそぎ研修

3月初めに、田井村課長を隊長とする総勢24名で三重県の椿大社にて、みそぎが行われました。天候は小雨、体感温度5度。みそぎをしている最中は、気合が入ったせいか、ふんどしになっても寒さを感じませんでしたが、水の中に入ると皮膚を引きさかれそうな冷たさを感じ、滝にうたれた時には声も出ませんでした。皆様も一度は経験しておくとも良いかもしれません。

●交差点

出逢いは人生の誕生日

岐阜県恵那市にて3月14日、ある会合がありました。「出逢いは人生の誕生日」という名前の誕生パーティーです。60人程全国から集合した。無農薬野菜を作っている人・ミニチュアサイズのピラミッドを自分の工場内に作った石屋さん・ハガキ道の先生夫妻・断食道場の先生・大阪の郵便局に勤めている人・知多のパン屋さん・酒屋さん：ひま人が大勢集合しました。私も暇だったので参加費3000円を払って出席。

「良い友人・師との出逢い」程、人生にとって幸せな事はない。出逢いによって過去に区切りをつけ、そして生まれ変わり、今までは違った新しい自分の人生を歩み始める事が出来る。それは、第二の人生の始まる日、新しい誕生日と言っても良いでしょう。

最近我社に入社したイラン人のジャファー君、中国人の王さん、白さん(両名は女性)お客様でマケドニアのゾラン君、ドラガン君。彼らは大変勇気のある人間だ、仕事の事、言葉の障害、生活様式、習慣、文化の違いを乗り越え、又、故国の家族をはじめ知人達の期待感等、数々のプレッシャーやストレスのある中で一生懸命仕事をしている。彼らを見てみると胸が熱くなります。久しぶりだなあ、こんな気持ちになるのは。4月より4名の新入社員が入社します、皆さんとの出逢いが大変楽しみです。

森 信 之

トシ君の一方通行

名古屋でも東京でも、地下鉄に乗ったり、都電に乗ったりすると、気がつくのは若者の姿勢が悪い。背中を丸め、足をオツ広げ、何故か寝てるか、漫画を読んでいるか。別に漫画が悪い、寝ているのが悪いとは言っていない。そういう若者が多いという事、小説とか教科書とか読んでいる人が少ないと言っているだけ。

栄養失調なのか睡眠不足か知らないが、よく寝ている若者が何故多いのだろう。背骨がないのか、ダラーツとした姿勢で座っているけど、そんなに疲れる程働いているのか、それとも勉強しているのか。

我々より一世代も二世代も上の方は若い頃こんな日本が豊かでない頃、食べる事もままならない時代を経験している人の方が背筋をピシッとしてカッと目を開いて毅然たる態度でいるのをみると、思わず立派！と思っちゃう。

姿勢が悪いのは、栄養でもなければ睡眠不足でもない。人生に対する姿勢の違いでしょう。私も気をつけなくては。

木村 英利

森松クインテッド

"桜"

今年も又、私の大好きな花・桜の花の咲く季節がやってきました。いつの頃からかこの桜前線と一緒に、南は九州、北は北海道まで旅することを夢みるようになりました。

でも、それを実現させることは、まだまだ先になると思います。いや………そんなに遠くはないでしょう。それに、四月は、私の誕生日、1/2世紀生きてきました。………と言えるのは来年ですが（今年と言ってもおかしくないとお思いでしょう）がやはり49才と50才とでは私の思いは違いますので。あの今を時めく有名人の、金さん・銀さんの年になるまでには丁度、人生折り返し点になりますので夢も希望もまだまだたくさんあります。日本の桜を見終えたならば、国外へ出ていきます。アメリカのポトマック河畔の桜やあの東西ドイツの壁のあった後に植えられた桜………等、まだまだ捜して見に行きたいと考えています。そして最後には「尊厳死」や「安楽死」でなく、西行法師のように「願わくは桜の花の下で春死なん………」の心境です。

さくら さくら 弥生の空は
見わたす限り 霞か雲か
匂いぞいづる いざや いざや
見に行かん

姥桜（森ちか）

喜怒哀楽

卒業、入学の季節になり、我が家では長女の中学卒業と高校入試です。日頃から娘とはあまり会話もなく、たまに、

父「オー元気でやっているか？」

娘「元氣だヨ！」

父「学校の方はどうだ？」

娘「まあまあ何とか！」

父「頑張れヨ？」

娘「分かった！」

この様な調子ですから、どこの高校を受験するのかさえ本人まかせでした。先日、結果発表の日を知り、朝出掛けに娘に、

「合格しても、そうでなくても、とにかく会社にはTELしなさい。」

と、一言いつて出勤しました。親として、少し複雑な気持ちでした。

波紋に載る頃は、試験発表があると思えます。ベストを尽くして頑張ったのなら、きつと良い結果が生まれる事を信じて待つ以外はありません。

一泊研修から帰ったら、私も娘もそして桜の花も散らずに満開だといいいのですが………

田井村 俊秋

新連載

4月号森松なんでも

BEST3

今月は、みそぎ研修もあつたという事で：

ふんどしが似合っていた人

- ① 横山 ② 鳥羽 ③ 加藤

あれー横山次長みそぎ研修に参加しましたっけ(?)

女・子供・年寄りにはめっぽう強い人

- ① 岩間 ② 加藤 ③ 大木

自分だけ似てると思つて

ものまねをする人

- ① 鳥羽 ② 柴田 ③ なし

瀬川英子は 天下一品似てません

青春ドラマの主人公(?)

- ① 加藤 ② 田井村 ③ 鳥羽

朝日ヶ丘の

総理大臣の

中村雅俊役

青春ドラマの 主人公の友人

暮らしのHッセイ

マグロと玉子

最近、目まぐるしく地域開発が進み、季節に応じて咲く路傍の花を見ることが少なくなつた。

同様に食べ物も変わってきた。子供時代は玉子一個が貴重でした。一年のうち食べられたのは、元旦と運動会と遠足と誕生日でした。そこでニワトリ一羽を飼いやつと家族のうち一人一個の玉子を食べられるようになった。こんな時代でしたので、毎日希望すれば一人でいくつも食べられるのは夢でした。

それが今や実現している現在、食べれなくなった食べ物が欲しいと思う。例えば、玉子が貴重だった時代に、香りが芳しい松茸は、今の玉子並みに食べられた。焼いたり、吸い物にした単なる季節の食べ物の一つでした。しかし今や松茸が店先から消え、高値の花になるとむしように食べられなくなる。

このように盛んに食べられた松茸のように、今にも食べられなくなりそうなのがマグロである。海洋資源保護から日本人特有の食文化がない国々からマグロ保護の提案がなされ捕獲でマグロ絶滅の危機にあう前に保護しようとする。

この提案に全面的に賛成できないのが日本人だと思う。寿司、刺身で親しんできたマグロ、それも健康食品として脚光も受けてきたマグロが松茸並みに食卓の高値の花になるかと思うと苛立つてくる。

しかし玉子のように養産できないし、牛、豚のように家畜化されないマグロを捕獲してゆけば鯨と同様に絶滅の時期を早めるだけとの意見にはうなずける。

玉子と同じ蛋白質であり日本人に欠かせないマグロを、なんとかして養産できる時代を夢にしたいと思う。

栗脇 一

退社あいさつ

今度、三月二十日をもって退社することになりました柴田です。

入社して一年ですので、特にこれという出はありませんでしたが、森松の皆様にご愛用いただいたことは、私にとつてとても大きな収穫でした。これを元に新天地でがんばりたいと思います。

森松の発展と皆様方のご健闘をお祈り申し上げます。

柴田 典仁



今月の社内行事

4月1日	新入社員入社式
2日	新入社員 NTT電話研修
4日	第一土曜日休み
6日	Y・M・S 担当・加藤
7日	十八時半より 4F 新入社員研修会 (中小企業家同友会)
〃	編集会議 十八時より 3F
8日	加藤先生来社
10日	F・M・S 十八時より 4F
11日	JAPANパック 大阪にて
14日	改善審査委員会 十七時半より
15日	タツタ会
21日	生産会議 十八時より 4F
25日	営業会議 十六時より
27日	経営会議 七時半より
29日	みどりの日

1992年カレンダー 変更

5 May

日	月	火	水	木	金	土
					1	②
③	④	⑤	6	7	8	⑨
⑩	11	12	13	14	15	⑩
⑰	18	19	20	21	22	23
㉔	25	26	27	28	29	30

販売部門

6 June

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
⑦	8	9	10	11	12	⑬
⑭	15	16	17	18	19	△⑳
㉑	22	23	24	25	26	△㉒
㉓	29	30				

6 June

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
⑦	8	9	10	11	12	⑬
⑭	15	16	17	18	19	⑳
㉑	22	23	24	25	26	27
㉓	29	30				

生産部門

△……交替休み

慰安旅行 1班 5/22~5/27
2班 5/29~6/3

?/?/?/?/?/? クイズコーナー(3月号の答え) ?/?/?/?/?/?

120円のチーズケーキの個数を、 x 個とすると、
 $\cdot 1400 \leq 120x + 150(10-x) + 150 < 1500$
 ヒントは、3通りでした。

120円	6コ	7コ	8コ
150円	4コ	3コ	2コ

10コのケーキに、箱代を加えて、1400円より多く、
1500円にならない個数の組合せは、以上の通りです。

編集発行者
森松株式会社

発行責任者
水野陽子

平成4年4月1日
第82号

編集後記

春の足音が少しずつ聞こえて来ました。

久しぶりに実家へ帰つての夕食につくしがテーブルにならんでいました。ひと足早く私らしく食べ物で春を感じました。

さて、今月号から森松なんでもベストスリーの連載が始まります。

このコーナーは編集委員だけでなく、みなさんの意見で作っていきたいと思っております。何か良いアイデアがありましたら編集部まで御意見お待ちしております。

岩田ひとみ